

特居領域

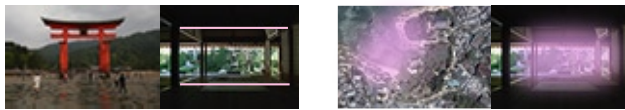
～つながっているようでつながっていない空間～

指導教員 吉松秀樹教授 印

6AEB3123 佐々木 豊

1. 日本の空間認識

日本人は鳥居がある事で神社との間につながっているようでつながっていない空間を感じたり、敷居や鴨居がある事で、見えない壁を感じ、つながっているようでつながっていない空間を感じる。



厳島神社の鳥居 日本家屋の敷居、鴨居 鳥居や敷居、鴨居がある事で生まれる空間。(fig.1)

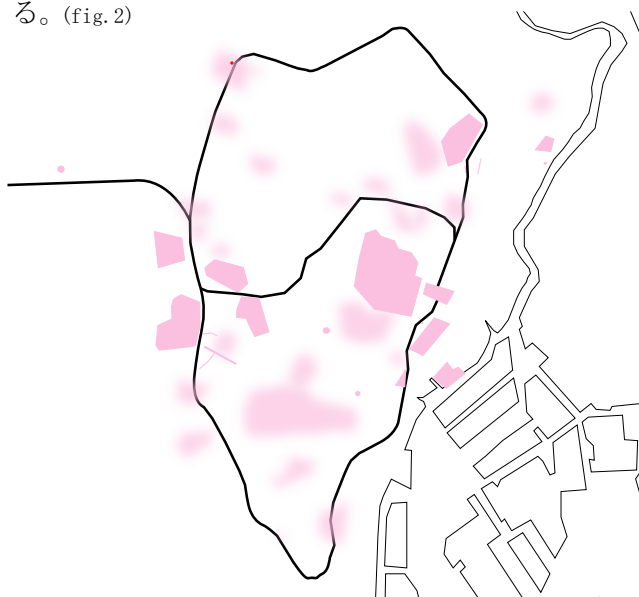
2. 特居領域

「特居領域」は鳥居や鴨居のようにそれがある事によって生み出される目には見えないが感じる事のできる空間。また、人によって空間を感じる範囲が様々な、繋がっているようで繋がっていない空間。

3. Tokyo research

3-1 Tokyo map

東京の魅力は近い所にたくさんの特異な領域が存在しているところにある。特異領域がたくさん集まり、東京という魅力的な町が出来上がっている。(fig.2)



Tokyo 特居map (fig.2)

3-2 特居領域をつくっているもの。

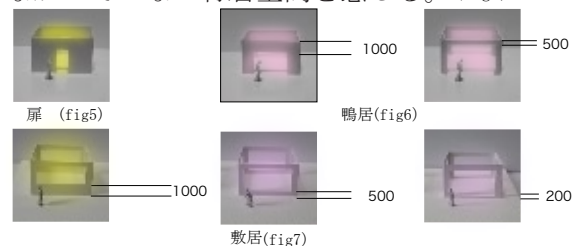
東京の特異領域はしっかりと区切られていて範囲が明確な特異領域と、区切りがあいまいで範囲が不明確な特異領域に別られる。明確な特異領域は門や壁などによってしっかりと区切られている空間。(fig3) 不明確な特異領域は人や看板やテクスチャーなど、その特徴的な物によってつくられるあいまいな空間である。(fig4)



浅草 明治神宮 広尾 神楽坂
範囲が明確な特異領域。(fig3)

4. 特居領域Analysis

つながっているようでつながっていない特異な空間を敷居と鴨居の変化で生み出せないか分析する。扉は壁としか認識できず、つながっていない空間を感じる。(fig5) 鴨居は低いと少し入りづらさを感じ、500下がっているようにつながっているようにつながっていない特居空間を感じる。(fig6) 敷居は高いと人に入りづらい空間を感じさせる。またげるぐらいの500までつながっているようにつながっていない特居空間を感じる。(fig7)



5. 提案

公共建築でありながら私的空間性が高いメディアテークを設計する。壁のない特異空間を連続させる事によって一面全てつながっている様に見える。たくさんのアクティビティーに触れる事ができる。しかし、架空境界により一つ一つの機能は区切られている。東京に点在する特異空間のように、人の感覚によって仕切られ方があいまいな特異空間、しっかりと仕切られている特異空間が建築内に広がり、一つのメディアテークがつくられる。

Sasaki Yutaka